



歌声に夢中…音楽会練習・保育園児参観

コロナ禍では中止とした音楽会の保育園児の招待。昨年度から再開しました。さらに今年度は、保育園児（年長）のみなさんに加えて、当日鑑賞することができない年中さん、年少さん、未満児さんに練習の様子をみてもらっています。

大きな体育館で、子どもたちの歌声に、最初はびっくりでしたがその後は夢中になって聴いていました。10月11日は未満児さんが鑑賞。マットの上にちょこんと座り、先生と一緒にじーっと演奏の様子を見つめていました。みんな夢中になって聴いていたようですね。



会場全体で「音楽の和(わ)」をつくりあげた音楽会

来賓・保護者をはじめ、大勢の皆様にご来場いただいて、手良小学校の音楽会を開催することができました。「みんなでつくろう音楽の和」を合い言葉に、学級ごとに、それから全校で音を紡ぎ練習を重ねてきました。会場にいる全員で音楽を共有し、心から音楽を楽しむ素敵な時間になりました。

「みんなでつくろう音楽の和(わ)メドレー」

学年ごと「証城寺の狸囃子」「しゃぼん玉」「タヤケコヤケ」「もみじ」「春の小川」「おぼろ月夜」



の6曲を現代風にアレンジし、メドレーしていきました。学年ごと演出や入退場にもこだわり、まさに全校でつくりあげるステージになりました。最後は会場みんなで「ふるさと」を歌い、互いの声を聴き合い音楽に浸りました。エンディングは「翼をください」でした。

音楽会後、子どもたちは口々に「楽しかった！」「来年は6年生みたいな曲をやりたい！」「明日も音楽会だったらいいの。」と言い合っていました。本番が成功したことはもちろん、そこにたどり着くまでの練習期間に満足感と達成感を覚えたからでしょうか。音楽を通して大きく

成長し、聴き手に大きな感動をくれた手良っ子たち、あっぱれ！！

各学年の発表の様子は「手良小学校ホームページ」をご覧ください。

地域のみなさんと交流した貴重なひととき…「手良秋まつり」参加

今年で2回目となる「手良秋まつり」が、本校校庭で開催され、大勢の方で賑わいました。

この日に向けて作品・製品作り、野菜作り、学習のまとめ展示やクイズなどの準備、ダンスの練習発表など、それぞれの学年でがんばってきました。

「見に来た人がいっぱいいて緊張したけど思いきってがんばりました。」

「ダンスが終わった後にたくさんの人達から『良かったよ！』と言ってもらえて嬉しかった！」

「がんばってつくったカブを全部買ってもらえてよかった！」

普段の学校生活では味わうことのできない、貴重な体験ができた秋まつりでした。

この様子は「手良地区活性化促進会議のホームページ」(<https://teranosato.jp>)でもご覧いただけます。
〈裏面へ〉



「心をみがく」…校長先生のお話より

11月には「秋のなかよし月間」です。児童会企画、清掃、各学年での取り組みなどを通して、友だちのよさに気付いたり、共感したり、認め合うことを通して、尊重し合う気持ちが高まることを目指しています。



11月1日、月間最初の日には校長先生より、「心をみがく」というお話がありました。

皆さんは、この石でつくられた像を見たことがありますか？ ほうきを持った、お坊さんです。このほうきを持ったお坊さんの像は、全国各地にあります。今日は、このお坊さんの話をします。

このお坊さんの名前は「周羅槃特(しゅりはんどく)」と言います。2500年ほど前インドという国にいたお釈迦様の弟子でした。このお坊さんは、物覚えが悪く、自分の名前も覚えられなくて、背中に自分の名前を書いてもらい、人から名前を聞かれると背中を見せて教えているというのです。他の人からはバカにされていました。そういう自分が情けなくなって、お釈迦様の所へ行って「私は、もう坊さんをやめたいです」と相談し

ました。

するとお釈迦様は「何も心配することはいらない。」と言って、彼に1本の竹ぼうきと、「塵(ちり)を払い垢(あか)を除かん(もっときれいにしましょう)」という言葉を受けました。

「周羅槃特(しゅりはんどく)」は、それから何年もおそうじをし続けました。ある日、いつものように庭そうじをしていると、お釈迦様が来て、「すいぶんきれいになったね。だけど1ヶ所だけ汚い所があるよ。」と声をかけてきたのです。「お釈迦様、どこが汚いのでしょうか？」と尋ねましたが、教えてくれませんでした。「はて、どこなのだろう？」と思いながら、それからもずーっとおそうじを続けたのです。

数年たったある日、「周羅槃特(しゅりはんどく)」は、はっと気がついたのです。「そうか、汚れていたのは、場所のことではなく『自分の心の汚れ』だったのか」と。「これで全部きれいになりましたね。」と言ってくれたのです。心の中の汚れとは「そうじがイヤだとか、さぼりたい、もっと楽しみたい、おしゃべりしながらやりたい」とか、「友だちを馬鹿にしたり、威張りたい」「算数は嫌いだからやりたくない」などという心を捨てなさいということに気がついたのです。

お釈迦様の教えがわかった「周羅槃特(しゅりはんどく)」は、ますますおそうじに精を出し、人々から逆に尊敬される立派なお坊さんになりました。

(校長講話詳細は「手良小学校ホームページ」メニュー「校長室」をご覧ください)

